

経済5団体主催

スルタン・サウディアラビア王国 皇太子殿下 歓迎昼食会
日本側を代表し、北城恪太郎代表幹事が歓迎挨拶

サウディアラビア王国のスルタン・ビン・アブドゥルアジーズ・アール・サウード皇太子殿下兼国防航空大臣閣下が、去る4月5～7日、政府の賓客として来日した。経済同友会、日本経団連、日本商工会議所、日本貿易会、日本サウディアラビア協会の経済5団体は、4月7日、都内ホテルでスルタン皇太子殿下歓迎昼食会を開催した。この歓迎昼食会で経済同友会が幹事団体を、北城恪太郎代表幹事が皇太子のホスト役を務めた。サウディアラビア側からはスルタン皇太子に加え、王族や閣僚、駐日大使らが出席。日本側は北城代表幹事の他、御手洗富士夫日本経団連副会長（当時）、山口信夫日本商工会議所会頭、金田勝利外務副大臣らが出席した。

日本とサウディアラビアは、昨年、外交関係樹立50周年を迎えた。日本にとってサウディアラビアは最大の原油輸入国であり、約29%を依存している。一方、サウディアラビアにとって



（写真左）会場へ向かうスルタン皇太子（左）を先導する、ホスト役の北城代表幹事。

（写真下）歓迎昼食会には、経済5団体の会員や関係者を中心に、200名以上の出席者があった。



日本は、米国に次ぐ第2位の貿易相手国という関係にある。また、スルタン皇太子は初代国王アブドゥルアジーズの子息で、1982年には副首相兼国防航空相に就任している。以来、国王、皇太子に次ぐナンバー3として政府の最高意思決定に参画してきた。今回の来日は、1960年、交通通信相の時以来、2度目。

日本側を代表して北城代表幹事が歓迎挨拶を行い、次のように述べた。

「貴国は、原油の安定的供給と価格安定にOPEC等を通じて尽力されてきたが、改めて、一層のご尽力をお願いしたい。わが国と貴国を含むGCC（湾岸協力

会議）諸国との、FTAや投資協定が協議中であるが、成功裏に進むことを期待している。さらに貴国は、昨年11月のWTO加盟を踏まえ、外資開放、民営化等の構造改革を推進しており、石油や水関連以外の産業分野を含め、今後、両国の経済関係が一層深まることを期待している」

これに対し、スルタン皇太子は次のような返礼挨拶を行った。

「わが国はイスラム社会のリーダーとして、中東におけるテロリズムに対する戦いを強め、全ての民族が平和に暮らせる世界の実現のために努力している。また、世界最大の石油輸出国として、価格の安定を通じ世界経済の発展に資することを目指している。世界の安定のために両国が果たす役割は大きい。両国の経済協力関係、両国間の投資や合弁事業が、今後ますます発展するよう努力を惜しまない所存である」

